

平成 23 年度 第 26 回福島県養護教育センター研究発表会
講演講師 広島大学大学院教育学研究科 落合俊郎氏より、
下記の資料をご提供いただきました。ご活用ください。

I 特別支援教育の視点に立った通常の学級における
指導について

○ 学級担任へのサポートガイド

II 私が少年院から学んだこと：特別支援教育との比較

I 特別支援教育の視点に立った通常の学級における指導について

学級担任へのサポートガイド

約10年前福山市立神村小学校でいただいた資料に、先生方の意見を加えました。一切の責任は落合にあります。

① **こんな子がいませんか**：脳機能の異常というとらえ方をはずしてみよう！

- ・読むことが苦手、漢字も苦手、字がますから大きくはみ出してしまう。
- ・話すことが苦手、何から話しているのか分からない、言いたいことがいっぱいあるけど話がまとまらない。
- ・集中して話が聞けない(すぐ気が散ってしまう)、たくさんの人と話すが必要なことが聞き分けられない。
- ・数の把握が苦手、算数の学習の遅れが2学年以上ある。
- ・形の構成や成り立ちが分からない、図形がとても苦手。
- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの音程が分からない、押さえ方が分からない。
- ・絵が描けない、はさみやのりや絵の具道具が上手く使えない。
- ・ルールが守れない、順番が待てない、思いついたことを出し抜けにしゃべる。
- ・衝動的な行動(暴力・暴言)が多く、危ないことも平気。トラブルが絶えない。
- ・授業中、席を離れて歩き回る。
- ・興味・関心がすぐ変わり、つい他のことに気がいってしまう。
- ・整理整頓ができなくて、プリントもどこへいったかわからない、お便りのプリントが家庭に届かない。
- ・忘れ物や落し物がとても多く、何度注意しても直らない。
- ・宿題をすることが極端に嫌いで、宿題をほとんどしてこない。宿題をやり終えるのに大変時間がかかる。
- ・友だちと遊ぶよりも一人遊びを好み、なかよしの友だちがずっといない。
- ・こだわりがあり、次の行動に気持ちが切り替わらない。
- ・作文やお話の絵や工作など創造力を働かせて学習する場で、何をしていたか分からずパニックを起こしてしまう。

こんな子どもたちと出会ったとき、私たちは「なんと勝手なわがままな子なんだろう」と思ってしまいます。こんな子どもたちは、見た目には表れていませんが、実は周囲の状況に慣れにくく、不安な気持ちで学校生活を送っているのです。不適切な行動や言動を「わざとしている」「ふざけている」と思わないでください。自分がどうしたらいいか分からなくて、こんな不適切な行動をとっているのです。

また、「しなければいけない」と分かっているけど、できなくて困っているのです。カッとなると自分を抑えることができなくて不適切な言葉を言うってしまうのです。それぞれ異なる困難を抱えて学校生活を送っている子どもたちが、困難を乗り越えられるように、サポート(支援)していきましょう。

あなたは『困ったなあ、どうしよう』と悩んでいませんか？

子どもにも教師にも困り感もあることを認めよう：環境因子が複雑化した現場：だから特別支援教育コーディネーターが必要なのです！

一斉学習やグループ学習が今までのようにうまく進みません。落ち着いて授業ができず学習が計画通り進みません。「隣のクラスは落ち着いて勉強しているのに…」「私の教え方が悪いのかしら?でも今までこんなことはなかったのに…」「なんとか勝手な行動を抑えなければ…」「家庭のしつけはどうなっているのだろう」担任が不安を抱え焦ると、学級全体も落ち着かなくなり、ますます授業は進まなくなります。

こんな時

恥ずかしいことではありません。担任の責任ではありません。誰も責める者はいません。一人で悩まないでください。同学年の先生・特別支援学級や特別支援学校の先生・校内の友だちの先生、誰にでもいいから、『困っている、どうしよう』と話しましょう。

話すことが、子どもたちをサポートする第一歩です。勇気を出して、校内で困っていることを話しましょう！ 校内委員会を作りましょう。コーディネーターの出番です。

すてきな1年の始まりです！：まずは楽観的に考えて連携しよう！

勇気を出して話をしたけれど、校内の支援はなかなか進まないときもあります。状況もほとんど変わりません。自分や人を責めたくありませんが、誰をも責めないでください。

困難をもった子どもたちとの出会いは、今までにない素敵な1年の始まりです！

- ・いろいろな講演会へいけるチャンスです。
- ・いろいろな人と出会い、話ができるチャンスです。人間関係が広がります。
- ・他機関との連携が必要です。保健センターの保健師
- ・授業を変えることができます。今までのマンネリから脱皮できるチャンスです。
- ・集団作りも研究できるチャンスです。新しい方法が見つかります。
- ・忘れられぬ思い出がいっぱいできます。
- ・自分の周囲の人の良さがいっぱい見えてきます。
- ・相手の立場に立って考えられるようになり、人生を楽しむことができるようになります。
- ・サポートできたときの喜びは、今までにない喜びです。

つらいけど、そう考えよう。いや、それしかない！

決して「あの子がいなければ、まとまるクラスなのに・・・」 「あの子がいなければ、平和なクラスなのに」なんて思わないで「この子がいて私のクラス」と思いましょう。（支援の焦点を明確化することでもある）

①

コーディネーターはどうしていますか？ どうしましたか？ 一般の先生はどうしてもらいたかったですか？

② 子どもの困難を理解することからはじめましょう！ 障害ではなく困難なのです

周囲の状況に慣れにくく、不安な気持ちで学校生活を送っている子、自分がどうしたらいいかわからなくて、不適切な行動をとっている子、「しなければいけない」と分かっているけど、できなくて困っている子、カッとすると自分を抑えることができなくなってしまう子、その多くは、発達障害を抱えていることが多いようです。

発達障害は、子育ての失敗や養育環境によって引き起こされるものではありません。保護者が悪いわけでも家族が悪いわけでもありません。まして子どもにはまったく責任がありません。まずその点を理解してください。長期にわたる計画的な支援が必要となることを理解してください。その次に、発達障害の様々な困難を理解してください。

LD(学習障害)の場合

- ・学習障害のある子どもの中には、読むことに大変苦勞している子がいます。自分では上手に読もうと精一杯頑張っているのに、読んでいる途中でどこの行を読んでいるかわからなくなってしまうのです。
- ・お手本の文字を書き写すのに大変な苦勞をしている子もいます。一生懸命手本を見ながら書くのだけれど、どうしても正しく書けないのです。
- ・「何度練習しても上手にできない」「もっと練習しなさい。一生懸命やりなさい」と繰り返し言われているうちに、意欲をなくしてしまい、益々「なまけている、不真面目」と見られてしまうのです。

ADHD(注意欠陥多動性障害)の場合

- ・とにかく気が散りやすく、興味のあるものが見えるとすぐそちらに行ってしまいます。面白そうなことが「気になる」というより、気にしないではいられないといったほうがいいかもしれません。
- ・「喋りたい」と思ったとたん、喋ってしまいます。喋った後で、「今しゃべったらいけない時だった」と気づきますが、周りの人から注意や叱責をうけます。
- ・「やりたい」と思った時も、やらなければ気が落ち着きません。それを無理に止められるとカッとなり思ってもいないような激しい行動に出てしまいます。いつも叱られてばかりでだんだん自信をなくしていきます。

高機能自閉症やアスペルガー一症候群の場合

- ・話す内容はしっかりしているのに、意外に話の内容や周囲で起こっていることが理解できていないことがあります。
- ・ゲームをしても「面白さ」を友だちと共有できないことが多く、自分だけでゲームをしているかのように楽しんでしまいます。「ルールが守れない」とよく言われます。
- ・することをいつもとがめられて、不満が蓄積してしまいます。
- ・フラッシュバック：主に音声に対して、過去の嫌な思い出をリアルに強い臨場感をもって思い出す子どもがいます。
- ・クラス内のある子どものことが気になって授業に集中できない。何もかもが気になる。

もっと多いその他の子どもたち

- ・この5年間、巡回指導で特に感じること：社会的格差の拡大による家庭力の低下が学習困難を引き起こしている。
- ・社会的格差の連鎖を止めないと社会の底割れが生じ、社会の質的変化が起きている：一億総中流の夢から目覚めよ！
- ・保護者が定職を得ることが、この子に大切だと思ってしまうケースが増えてきた。
- ・障害の病理学モデルでは説明できない子どもたち、社会モデルで説明できる子どもたちの急増：保護者の責任と言われても動けない保護者：受益者とはだれか。病理学的モデルは教育的支援の規制を生んでいないかという疑問。

②

その他、どんな子どもと出会いましたか。そして、どうしましたか。どうなりましたか。小学生と中高生の違いは？

③ **ちょっと授業の工夫をしてみませんか？** 学校・学級は生きています。活動を止めて変えることはできません。

できることからちょっと工夫してみてください。「あれもこれもしよう」と思わないでください。できることから始めれば、子どもたちが少しずつ変わってきます。そして、学級全体の児童が、授業がよく分かるようになり、基礎学力がつかめます。学級も落ち着いてきます。

わかりやすい授業の創造をしよう！：このことがユニバーサルデザインに

向かう授業作りの原則

自尊感情を高めよう！：子どもたちを大切にしよう！

気になる児童生徒をプラスのエネルギーにして授業を組み立てよう!

小さな授業の工夫とは：

- ・学校生活のルールは、絵や文字で表し視覚的な指示を出す。(例)学習のために準備するものは、黒板に毎回書く(貼る)。置く場所も絵にして貼っておく。
- ・授業も切り絵や挿絵を多く使い視覚的な授業をする。
- ・音声の指示は少なめにし、はっきり・わかりやすくする。(例)先生がいるところへ並びましょう。(できたら「ちゃんと並べたね」としっかりほめる)「教室の後ろに並びましょう」という指示は、よく分からない児童もいるので、先生が立っているところという視覚的にはっきりした指示のほうが良いです。
- ・指示に対してはナンバーリングをして、見通しをもたせる。

事前に了解を得て、どうすればいいか指示を出しておく

- (例)「朝会が体育館であるよ。みんなと一緒に行こう」「時計の長い針が8になるまでお話を聞こう。」
「～しよう」という言い方をしましょう。「どうする?」という言い方は、このような子どもたちを、ますますどうしたらよいか分からなくさせます。
- ・難しいことから始めない。できそうなことから始めて、できたら必ずほめる。(例)歩いて体育館へ行きましょう。(担任は静かに行くことを約束事にしたいが、低いレベルのことから始める。)中学生には?

量的な面と質的な面からのスモールステップが大切です。

- ・20題のドリルを拡大コピーして5題ずつ切って分けてあげたら、全部できた。偶数あるいは奇数の番号の問題を解かせた。
- ・文章題を立式の内容に合わせて区切って計算させ、意味の確認を行いながら計算を進める。

「これくらいできてあたりまえ」と思っただけはいいけません。自信がない子どもたちは、ほめられたことだけが心に残ります。

- ・あたりまえのことと思えることでも認めてほめる。(例)「きちんと準備できているね。」「いい姿勢だね。鉛筆の持ち方がいいね。」「3問も計算ができたね。」
 - ・授業は10～15分で区切り、書く・読む・話す・考える・動く(操作活動・動作化)・この5パターンを入れ替えて組み立てる。
- 机上学習から動きのある学習への転換が必要となります。合理的離籍の場を作る。前もって授業を計画し教材をそろえることが必要となりますが、放課後の時間を有効に使ったり、学年の先生と分担したり、他学年からも借りられるものは借りて利用しましょう。
- ・課題や作業が早く終わる児童のために、別の課題や作業を準備しておく。
 - ・シールや花丸、トークンをあげましょう。机の上にシールを貼る個所を設ける
- つまづきが予想される児童にも、別の課題や作業を準備しておく。(気付かないように他の児童生徒より課題を少なくする)他の学年のプリントなど借りられるものは借りて利用しましょう。：学校全体での取り組みをめざす特別支援学級や特別支援学校の先生と連携し、個別学習のプリントやアドバイスをもらいましょう。特別支援学級や特別支援学校の先生は、発達障害児への支援のノウハウを持っているので頼りになります。

- ・離席が多く集中できないときは、操作的な課題を指名してさせたり、担任の助手をしてもらおう。「座っていないさい」と何回いっても効果はありません。担任の助手をさせて、役に立っていると感じることは、自分の居場所を作り不安の解消になります。うまく助手をさせるよう工夫してください。係活動は自尊感情の育成にも役立ちます。

- ・離席カードを3枚作り、離席カードを使って落ち着く場所へ行く。4月は5枚、5月は4枚、6月は3枚のように減らしていく。

- ・落ち着く場所をまず見つけてください。行き先と帰ってくる時間を児童と相談して必ず決めておきましょう。授業中教室から出たいときには、必ず一定の約束を決めておき、先生に理由を伝えるようにしましょう。落ち着く場所に保健室を選ぶ児童が多くいます。養護教諭と連携をして、約束の時間がきたら上手に教室へ返してもらいましょう。約束の下の「逸脱」です。**合理的離籍の設定**

③

全般的なこと、児童生徒に対する指導的なことで、もっと良い工夫を知っていますか？ 紹介してください。

④ 学習指導要領解説に一味加えよう：ある学校で考えた大事な一歩，皆の力を集めよう

・国語では、文字の習得に工夫をする。(言語化と図式化)，必ずモデルを示す(過去の作品など)

発達障害児への支援のノウハウに関する書籍はいっぱいありますので、まとめてみよう。特別支援学級や特別支援学校の先生の力を借りましょう。漢字は学習障害児だけではなく、日本語を勉強する上で最も難しい(中国・韓国からの留学生も同じ事を言っています)：漢字九九。暗誦の苦手な子どもには、リトミック的動作を入れる。

・算数はブロックなどを使って操作活動を十分にさせる。動きを取り入れることにもチャレンジする。また情報機器を視覚的に使う。視覚的な授業が有効です。算数障害について専門的なことを少し学ぶと適切な対応ができます。特別支援学級や特別支援学校の先生の力を借りましょう。

・生活科や総合的な学習は体験活動が多いので、グループで活動する時間が多くなります。そして、困難を抱える児童生徒にとってグループ学習は、何をしたらよいかまったくわからない時間となってしまいます。何をしたらよいかはっきり教えましょう。すると、いきいきと活動でき「できた」という達成感を感じることができます。体験学習の中で、自然にソーシャルスキルを学んでいきます。どんな体験学習をするのか事前に知らせておくことが大切です。

・体育ではゲーム感覚を取り入れた「体づくり運動」をする。ゲーム感覚のできる「体づくり運動」がたくさんあります。その中でも自然にソーシャルスキルを学んでいきます。運動能力によってグループを分けて「体づくり運動」をすることや、少しずつルールを増やしながらすることが大切です。体育が苦手な子どももいます。

・道徳ではソーシャルスキルを身につけるためにロールプレイを取り入れた授業をする。道徳資料を分かりやすく提示し、ロールプレイを仕組んでみましょう。まずは教師が相手役になりロールプレイをしてみましょう。

・優れていることを見つけて、自信をもたせるようにする。得意なことを必ず見つけて、みんなから認められる場をたくさんつくりましょう。授業の前半で「解説役」「模範演奏」「模範試技」などの役割をもたせることもできます。自信をもつと子どもは大きく変わります。得意なこととは、天才的な能力のことではなく仲間から認められること、あるいは本人がそう思っていることでも良しとしましょう。自分で自分の良さがわからない子どもがいるので、教えてあげないと自尊心がわかない。

・休み時間が苦しい？ 何をしたらよいかわからない不安！

新学習指導要領では、通常の学級に感覚障害、肢体不自由、情緒障害、発達障害の子どもが在籍していることが明示されています。しかし、各教科の学習指導要領では障害のある子どもへの具体的な方法について言及していません。先生方の経験の蓄積が重要となります。

落ちつけ体操 自己コントロールのためのおまじないを作ろう：まんざらウソではないようです。

- ①何か楽しいことを思おう。
- ②椅子にしっかり深く腰掛ける
- ③深呼吸して目を閉じる
- ④楽しいことを思い浮かべる
- ⑤手をグーにして腕を胸の前で組む
- ⑥力を入れてパッと緩めて離す。同時に膝もぎゅっとつけてパッと緩める。
- ⑦ぎゅっと力を入れたとき、「落ち着け、落ち着け」と小さい声で自分に言う。（最終的には内語化）

④

教科学習の指導で、もっと良い工夫を知っていますか？ 紹介してください。

⑤学級集団づくりが大切です

「先生は君のことが大好きだよ」というメッセージを送り続ける。「みんなそれぞれ困難をかかえているんだ」「うれしかったこと」「がんばったこと」をたくさん見つけるクラス作り。

- ・一日の日課(スケジュール)は、細かく書き、了解を取って変更する。なるべく変更しない。
- ・日常生活と違うスケジュールのとき(集会・見学・参観日など)は、事前にどうしたらよいか考えさせて簡単な目標を持たせておく。少しでもできたらほめる。
- ・望ましくない行動をとっていても、いちいち注意・指摘・指示をせず、さりげなく見守る。**積極的無視!** 他の児童に影響が出てきたときには、側に行き肩に触れて注意を促しながら、優しく「やめたほうがいいよ」と声をかける。合図を決めておく。
- ・友だちとトラブルになり興奮状態になったときは、タイムアウトをとる。別の部屋に移動させ、まず言い分を聞く。興奮がおさまって暫くして、自分の行動を振り返ったり他者の気持ちを理解させたりするように話をする。その時には必ず、「先生は君のことが好きである」というメッセージを話の中に何度も入れて話す。話は必ず短時間で終わらせる。「本当はいい子なんだよね」(窓際のトットちゃんのことば)という精神。
- ・担任が仕事を頼み、働きに感謝する。「ありがとう」の言葉で役に立ったということを感じ、不安の解消になります。役割相乗型社会を意識しよう。どんな小さなことでも助けあおう。ちいさな支援を受け入れよう。
- ・係りや当番の仕事は、何をすればいいかわかるように貼っておく。

本人が同席していないとき、周りの児童生徒に、当該児童生徒の行動について理解を求める

(例)〇〇君は喘息で咳を止めようと思っても止まらないときがあるね。〇〇さんはアトピーで掻いてはいけないことはわかっているけど、我慢できなくて掻いてしまうときがあるね。そんな時は、薬や病院の先生に助けをもらおうね。

〇〇さんも〇〇君も遠くがよく見えないから、眼鏡に助けをもらってよく見えるようになっているね。A君もいけないとわかっているけど、イライラしたり怒鳴ったり勝手なことをしてしまうんだ。A君を助けるためにみんなとは少し違った勉強の仕方をするところがあるんだよ。

(例)〇〇君はマラソンが得意、でも水泳は苦手。〇〇君は算数が得意、でも給食は苦手。〇〇さんは絵を描くのが得意、でもお話することは苦手etc。君は運動全部得意。でもじっと座っておくことは苦手なんだよ。みんな得意なことと苦手なことがあるんだね。苦手なことは、いろんな先生が助けてくれるから大丈夫だよ。

・帰りの会では、「うれしかったこと」「がんばったこと」を大切にする。その日のストレスを明日に持ち込まない：「良いことボックス」や「できたボックス」を作る。「ありがとうカード」を作り、友だちに「ありがとう」が言いたい時学級ポストへ入れます。そして、メール係が帰りの会の時にカードを届けます。担任も、「よかったこと」を紙に書いて発表します。そして、次の帰りの会まで貼っておきます。

・毎日連らく帳へ「がんばったこと」を2～3行書き、家庭と一緒にほめる。クラスの児童にも「がんばったこと」をできるだけ書き、家庭に伝える。文字だけでなく絵もかいてください。例えばニコちゃんマークを多くする。×マークや困ったマークの代わりにニコちゃんマークの数で勝負！

・座席は、教師の動きが見えやすく、援助が求められやすい場所。「いつでも先生が見ていてくれる」という安心感、支えが必要です。しかし、前の席が良いとは決まっていらないように思います。その子に合った席を見つけましょう。全体の流れが理解できない子どもは、他の子どもたちの動きで判断しています。一番前だと分からない。

・整理整頓された教室にする。

視覚から刺激がはいるので、雑然とした教室は、イライラした気持ちを強化します。注意をそらす環境は避け、机の上も必要な学習道具だけ出させるようにしましょう。いつも目に入る教室の正面はすっきりと構造化し、学習に必要な掲示物は横に。学級文庫等にはカーテンをうまく使いましょう。

あなたの対応はどのパターン？

- ① ほら、ここが違うよ。これは・・・・・・でしょう！（すぐ正解を示す）
- ② ここが違うよ。ヒントは・・・・・・です。（誤りは指摘するが、正解は示さない）
- ③ この辺がおかしいな。（注意して見直す部分を限定し、自分で間違いを発見できるように援助する）
- ④ そうか、ここが間違っていることに気がついたんだね。えらいぞ。正しい答えを出すには・・・・・・するといいいよ。（間違っているでも、それに気がついたことをまずほめて、ヒントを与えながら援助する。）

中学校・高等学校へのヒント「平成 21（2009）年 8 月：特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 高等学校ワーキング・グループ 高等学校における特別支援教育の推進について」からのヒント

高等学校の学習指導要領は、小中学校の学習指導要領よりも弾力的であり、特別支援学校の学習指導要領の次に弾力的です。「学習に遅れのある生徒」という表現が突然現れます。不思議ですね。

実態把握の方法

- ・チェックシート、教員向けアンケートなどを実施：教育委員会のホームページにあります
- ・巡回相談員などの外部専門家による授業観察
- ・共有ファイルへの書き込みやメモを提出することによって情報を集積
- ・各種心理検査（集団型、個別型）
- ・小テストの結果活用
- ・欠席日に注目した実態把握：感覚過敏な生徒が柔道着を着ると肌のこすれが痛くて休んだ例
- ・教育相談実施生徒に注目
- ・全員に対して面接を行い、基礎資料を作成。勉強ができる子どもに対する留意も必要
- ・事故等が発生したときのレポート作成とその集積
- ・定期的に生徒の様子について話題にする場を設定
- ・保護者や生徒本人に対するアンケート調査（全員）
- ・合格発表後の中学校からの情報収集：義務教育年限ではスルーしてしまう。高校入学後で初めて「できない事」が問題になることがある。（高校から中学校への不満・注文？）
- ・大学での問題：高校での学力観と大学の学力観の違い：偏差値だけの大学決定のこわさ

授業改善・指導の工夫（小学校であまり行われていないことを中心に、抽出しました）

- ・SHRの2回設定
- ・わかりやすく，読みやすいシラバス集の作成
- ・認識しやすい色チョーク：蛍光チョーク（アンケートによる色の決定：見にくい色があるようです）

テストの配慮例

- ・巡回中の丁寧な説明：しかし，合理的配慮の基準を決める必要がある
- ・小テストを繰り返し実施
- ・問題用紙と解答用紙を1枚にする
- ・鮮明な印刷，カラー印刷による見やすい問題用紙（カラーコピー用紙の機能別分別：例えば，一年間使う印刷物はピンクの紙，回答すべき内容は緑など）
- ・漢字にルビを振る，行間を空ける，文字を拡大する
- ・テスト前の補習（小集団，個別指導）
- ・別室受験
- ・テスト時間延長
- ・テスト監督の複数配置

評価（単位認定）の配慮例

- ・基本的に評価の方法は全員同じ
 - ・日常の授業への取組の態度等を加味して総合的に評価
 - ・提出物や課題等の取組を加味（それらに対する支援も実施）
 - ・テストの得点が不足した場合のレポート指導
 - ・シラバスに授業内容や評価方法を掲載，事前に周知
 - ・生徒の変容を多角的，総合的に把握
 - ・評価に配慮を要する生徒についての配慮内容は，学年や担任が要請
 - ・大学入試のAO入試のような評価：態度，努力の度合，進捗状況の評価，生活目標や熱意に関する評価：複数の評価員による総合的な評価
- ・落第や退学 \rightleftharpoons 納税者を失う \rightleftharpoons 私の年金・退職金不安：この図式を念頭に入れてほしい

学校設定科目の例（高校種別の比較：普通科52.8%，専門学科56.0%，総合学科96.2%で開設）

・郷土史（地歴），環境と人間（理科），ものづくり基礎A（工業），演劇表現（国語），環境と人間（理科）など，身近な題材で授業を構成して，子どもの状態によって時数や内容を決めることができる。高校の学習指導要領で「突然」学習に遅れのある子どもへの配慮がでてきます。小学校，中学校にも必要です。

⑤

学級経営や指導全般について，工夫していることを紹介してください。

⑥保護者支援

担任が一番苦慮するのが保護者支援だと思います。しかし、書籍の中や講演会で保護者支援が取り上げられることは少ない現実があります。保護者支援こそ、担任だけでなく、学年の先生や特別支援学級や特別支援学校の先生や養護教諭の先生や教頭先生・校長先生とチームを組んで考えていかなければならないと思います。

いろいろな保護者がいます。

②□学校に慣れれば落ち着くのではないか」「大きくなれば直るだろう」と思う保護者

②担任の指導力を疑い、担任のせいにする保護者。特にADHDの症状は、他者(集団)の前では助長される特性があり、多くの場合、家庭と学校では状態が異なります。保護者は教室での様子が信じられずに担任の指導を疑い、「担任が悪い」と思うことがあります。

③自分の子どもの教育に関心が強く、熱心に子どもに関わる保護者など。保護者支援で一番大切なことは、信頼関係をつくることです。「信頼関係を崩しかねない一言」を最初に書いておきます。

「お母さん、考え過ぎですよ。」「こんな子は見たことがありません。」「ADHDかもしれません、病院に行って診断してもらってください」「お母さん随分甘やかしていますね。」「私の手にはおえません。困っています。」「子どもたちを公平に扱いたいので特別扱いはできません。」「私は38人の子どもを見なくてはいけないんです。忙しいんです。」「専門でないのでよく分かりません。相談に行ってください。」

学校の取り組みとよくなってきたことを伝えよう

子どもの様子ばかり伝えると、保護者が離れていく。家庭のせいにはしないこと。「家庭でもう少し見て欲しい」「保護者はこんな状態を知っているのだろうか」「保護者は今までどういう子育てをしてきたのだろうか」とつい思ってしまう。保護者も養育の悩みをかかえて困っています。特に母親は家族・地域のことに心理的な負担をかかえています。それに加えて、担任から自分の子育てを批判されると、母親はどうしたらいいか分からなくなり、精神的に不安定になることがあります。母親の不安定は、児童生徒に大きな影響を与え、児童生徒の状態をさらに悪化させていきます。

まず、学校でしている支援(取り組み)を伝える。保護者も家庭でどうしたらいいか困っています。学校で行っている支援を聞いて安心します。そして、学校で行っている支援をヒントに家庭での対応を考えることもできます。よくなってきたことを伝える。

保護者は今までに我が子のできないことをたくさん言われてきて、我が子の「できないこと」はよく知っています。いろいろ努力してみても、我が子はできるようにならないので悩んでいます。そんな時、我が子の長所や学校生活がよくなっている様子を伝えられると、保護者は「この先生は、分かってくれる」と感じます。そして、信頼関係が築き始められます。このことは、児童生徒に大きな影響を与え、児童生徒の状態を好転させていきます。

保護者に支援の筋道が見えるように話をする。

これからどんな支援をしていこうとしているのか話をすると、保護者は我が子を担任が応援してくれていると感じます。どうしたらいいか悩んでいる保護者は担任に相談できると感じます。個別の支援の方法は校内支援委員会の中で、考えていきましょう。電話では、最初に良いことから話そう。カッカと来ているときは管理職やコーディネーターを通してから話す。

保護者と一緒に「共通すること」を行う。

まず一番に、「子どもをほめる」という「共通すること」を始めましょう。困難を抱えた児童の連絡帳に、担任が毎日「がんばったこと」を1~2個、簡単に書きます。(短くていいから毎日続けます)保護者に連絡帳を見てもらって、毎日学校でがんばったことをほめてもらいます。最初は、担任は「がんばったこと」を見つけるのに苦労しますが、少しずつ子どもの見方が変わり楽に書けるようになります。保護者も最初は、ごちないほめ方ですが、少しずつほめ方が上手になります。余裕があれば、クラスの児童全員に、時々「がんばったこと」を書くと、保護者全員とうまくコミュニケーションがとれるようになります。

・保護者と児童の抱える「困難を理解」し、認めていく：保護者と信頼関係ができてくると、子どもの抱える困難についてじっくり話ができるようになります。母親から、幼少期のことや将来への不安が話されることもあります。母親に共感して話を聞きましょう。そうすると、よりよい支援を求めて、医療機関や相談機関へ行くことを勧めていくことができます。

・医療機関や相談機関へ初めて行くときは、日程調整ができれば一緒に行く：保護者は、担任と一緒にいるほうが心強く感じます。また、主治医や相談員から学校へのアドバイスをもらえるチャンスです。そして、次回からの相談を、保護者・担任・医療機関&相談機関のつながりをもって進めていけます。

・医療機関や相談機関と担任も連携をとりましょう：専門性の高い医師や教育相談員から、児童の状態を客観的に見て、アドバイスをもらえます。このアドバイスはとても役に立ちます。しかし、責任者は教員であることを忘れずに：19文科初第125号通知を見てください。

・周りの児童の保護者へ説明をしましょう：周りの保護者への理解を進めるには、学級での実践を見せることが大切です。子どもたちが前向きに何事にも取り組む姿勢がある時、子どもが必要としている特別な支援に、回りの保護者の理解が得られると思います。

⑥

子どもよりも保護者への対応で悩む先生が多くいます。コーディネーターはどう対応しましたか。先生方はどうしてほしいですか。

おわりに

困難をかかえる児童への支援は、発達障害のある子はもちろん、どの子にも分かりやすい授業をつくり、クラス全体の基礎学力の向上につながります。そして、居心地のいい学級づくりができ、どの子も安心して学校生活を送れるようになります。

まず、できることから支援を始めていきましょう。この学級担任が孤立しないようサポートチームを必ずつくってください。学級担任の孤軍奮闘にならないために、校内に協力しあえる組織を作りましょう。

現在、内閣府で国連 障害者の権利条約 批准のための国内法を整備するため、「障がい者制度改革推進会議」が開かれています。この会議は、障がい者のためだけの制度改革ではなく、教育改革や社会改革への合理的な意味があると思います。日本は今、未曾有の危機に瀕しています。自覚しなければならないのは以下の事です。

1. 人類が経験したことがない少子高齢化を経験し、数年前から人口が減少していること。つまり予算支出が急増しているにもかかわらず納税者が急減していること(ジャパンシンドローム 1)。
2. 戦時国債よりも多く、財政破綻したギリシャの2倍近い債務を抱えた国家であり、いつ財政破綻があってもおかしくない国家であること。そして、この国の公務員であることの覚悟(ジャパンシンドローム 2)。
3. 人類初の原子炉の複数同時メルトダウンの深刻さ不気味さを自覚すべきです。他の原発事故は原子炉1基の事故だったのです！

東日本大震災によって、様々な困難に直面しています。それぞれの教員に何ができるのか。ボランティアに行くことも必要です。しかし、自分の持ち場でしっかりと働くことがそれよりも重要です。

山形県鶴岡市教委と山形大学の共同研究の結果：不登校の激減と算数・数学と国語の成績の底上げが生じた例があります。特別支援教育的視点からの通常の教育の見直しの成果を信じましょう。

不登校児童・生徒の出現率の推移（人口15万人の市）

- 取り組み前後の比較：3.8%から2%(中学校)
- 取り組み前後の比較：0.4%から0%(小学校)

国語と算数・数学の偏差値の推移

国語： 52 から 55.2
算数・数学：50.8 から 53.5

この学級担任サポートガイドは広島県福山市立神村小学校で作られたものに加筆したものです。素晴らしいものは中央にあるとは限らないのです。我々の身近にもあるのです。この内容は保育所、幼稚園、中学校、高等学校では当てはまらないことがあるかも知れません。それぞれの学校・園で皆さんの英知を合わせることによって、それぞれの現場に役立つ手引きができると思います。

今、内閣府の「障がい者制度改革推進会議」や中央教育審議会では、特別支援教育ならびに通常の教育の大きな変革を議論しています。それは、特殊教育から特別支援教育への変換よりもずっと大きいと思われまます。特別支援教育と通常の教育との新たな、そしてより強固な連携が求められることが必至です。今こそ、そのための準備をしなければならない時です。

しかし、本当は、障害者の権利のために制度を改革するのではなく、通常の教育を変えることによって、日本が直面している様々な問題を解決する重要な変革であるということを知られていません。上述した3つのジャパンシンドロームに新たに加わった福島原発事故、東日本大震災の復旧・復興のためには、莫大な税金が、負いきれない脆弱性を抱えた日本に降りかかるのです。それにはネバダ レポートの様な変革は避けられないのか。それを避けるためにも、我々の年金や退職金を保障するためにも「納税者を増やすこと」が必要です。生徒指導との関係の説明が消化不良ですが、時間がありません。とにかく頑張りましょう。「頑張りましょう」という軽い表現では言い尽くせませんが。

支援チームシート

年 組 氏名 担任氏名		学 習 面 (学習状況) (学習スタイル) (学力)	心理・社会性 (情緒面) (人間関係)	進 路 面 (得意なこと・趣味・夢) (進路希望)	健 康 面
情 報 の ま と め	(A) いいところ・子どもの 自助資源	得意(好き)な科目	性格のいいところ	得意なこと・趣味	体力・健康状況
		自信のあるもの	楽しめること	登校・下校	給食
		やりやすい学習法	リラックスできること	掃除当番	
		学習意欲	人とのつきあい方	給食当番	
				係活動	
	(B) 気になるところ・支援 が必要なところ	成績の状況	性格の気になるところ	登校・下校	心配なところ
		学習の様子	気になる行動	掃除当番	こだわり・癖
		苦手科目	人とのつきあい方	給食当番	給食
		遅れが目立つ科目		係り活動	身体面の様子
		学習意欲		目標の有無	気になる症状
	(C) してみたいこと 今まで実行した、ある いは、今行っている支 援とその結果				
長期 目 標	この子にとって将来の目標・必要なこと				
一 学 期	長期目標のための短期目標				
二 学 期					
備 考 欄					

学期をふり返って

		変化がみられたこと	課題となったこと	専門家・保護者の意見等
一 学 期				
	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法
二 学 期				
	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法	具体的な支援内容・方法

一年間をふり返って

成果が見られたこと	
次年度への課題と引き継ぎ事項	

個人プロフィール

学年・組		氏名		担任名		作製日	
------	--	----	--	-----	--	-----	--

生育歴	生年月日		出産時	
	人見知り		後追い	
	発語		始歩	
	幼児期の様子			
検査結果等	検査名	検査日	結果	検査場所
	PRS		言語性 非言語性 総合	
	WISCIII		VIQ PIQ FIQ	検査者
	K-ABC		継次処理 同時処理 認知処理 修得度	
	学力テスト		国語 算数	保護者の検査への思い
	備考			
家庭の状況				
保護者の願い				

事例検討会記録用紙

事例検討会実施日 年 月 日 時 分 ~ 時 分 第 回
 次回予定 年 月 日 時 分 ~ 時 分 第 回
 出席者名 ()

学期目標
 苦戦していること ()

年 組		学 習 面 (学習状況) (学習スタイル) (学力)	心理・社会性 (情緒面) (人間関係)	進 路 面 (得意なこと・趣 味・夢) (進路希望)	健 康 面 (健康状況) (体力) (動作)
氏名					
担任氏名					
支 援	(D) これからの支援で 何を行うか				
案	(F) 誰が行うか				
	(D) いつからいつまで 行うか				

学期目標

苦戦していること ()

変わってほしいこと ()

1. 事例の概要

--

2. 議論に出た内容

--

3. 私ならこうする(実際に行えること)

学校では	家庭では

Ⅱ 私が少年院から学んだこと：特別支援教育との比較

「困ったときのこの一冊」～少年指導のヒント～から

I. はじめに

少年院から学んだもの：4年間少年院で研究をしたことがあります。少年院と刑務所を誤解している人がいますが、多くのことを学びました。

職業として見るとかなりの厳しさもあることも教えられました。教育関係者は、児童・生徒・学生が卒業すれば、戻ってくることはありません。学生の場合、大学院生として同じ場所に戻ってくることはあります。しかし、少年院の場合、再犯して戻ってくる場合があります。病院であれば手術や投薬という手段を使って、病気の再発を防ぐことができます。しかし、少年院の場合、人と人との関係の中で、再犯しないようにするには、矯正を行うために信頼関係を作り、少年の心理に訴えかけることしかできません。そして、再犯が起これば、自分がだまされたり、力が十分でないとは批判される大変な世界でした。

生徒指導が不十分であり、最悪の事態になると少年院あるいは少女苑ということになるわけですが、その中をのぞいたとき、多くのことを学びました。ここに紹介します。

Ⅱ. 少年院の「困ったときのこの一冊」～少年指導のヒント～ 名古屋矯正管区（2003）

この冊子は300ページにも及ぶもので、少年院の様々な経験を冊子にまとめたものです。紙面と時間の都合上、私の責任で選択し紹介します。

1 プロ意識を持って—高い理想と使命感—

- 「少年院の教官になりたい」と思ったときの自分の原点を大切に
- ・少年の変化 喜び 我が天職
 - ・プロ意識を持つ
 - ・良き伝統の継承者たれ 新しき時代の先駆者たれ
 - ・自分たちだけで完結させると思ふな
 - ・矯正界以外の人の目を意識した教育を
 - ・閉ざされがちな社会のみの常識に埋没するな 扉を開け 新しい空気を

2 父となり母となり —少年を見つめる目—

- ・自分の子どもに同じ事が言えるか 自分の家族に同じ事が期待できるか 彼らは別世界の人間ではない
- ・少年の身近な人に気を配れ
- ・少年のそれぞれを大切にしたい
- ・少年の長所を探し それをのばす方法を考えよ
- ・体の病の奥に潜む心の病にも気を配る
- ・指導の基本は手塩にかけること（親身の世話を怠らない）
- ・矯正教育に落ちこぼれなし
- ・問題を起こすから「問題児」だと決めつけるな
- ・少年を小馬鹿にするな

少年を指導するにあたって「こんなことぐらい知らないのか、そんなことぐらい分かるだろう」と少年に言うことがあるが、決してこのようなことがあってはならない。少年の気持ちをいじけさせ、生活意欲をなくさせ職員への信頼を失わせる。それ以後、少年は指導に素直に応じてくれなくなる。

- ・少年は自らの力で立ち直るのである 決して職員の方だと過信してはいけない

- ・少年の生い立ちを知ることから教育が始まる

非行の原因は生活環境に起因していることが多い。その原因を探り、少年の教育を行う上で欠かせない。目先の院内生活にとらわれず、少年簿や調査記録をよく読み、少年の生い立ちを知ることから教育が始まることを忘れないでほしい。

- ・良き手本となれ 一自己を見つめる一
- ・教官は常に自己研さんを
- ・視覚に訴え 良き手本となれ
- ・きらりと輝く個性を持つ
- ・幅広い知識と教養が少年を引きつける
- ・少年に誇れるだけのものを持つ
- ・いつも問う これで良いのか なぜこうか

原点と理念に戻って。矯正処遇に定立した法則は発見されていない。そこで、処遇実践の結果や少年をめぐる派生する問題を常に吟味しながら、次の一手を考えていかなければならない。矯正教育は、少年から学び続ける営みであるといえる。

- ・少年の行動観察をしているが、少年からも行動観察されているのだ
- ・ベテラン教官の格好だけ真似るな(陰で)フォローしていることを見逃すな
- ・自らが健康であること

4 人の痛みを知れ —共感性 寛容 誠実

- ・人の痛みを知れ

少年の体調にはいつも気を配り、「大丈夫か」「無理するな」と声をかけてやり、「もし怪我をしたときは、「この薬を塗っておけ」ではなく、肉親がするように、教官自ら塗ってやることによって信頼関係も生まれる。

- ・病気のときは忘れずに「どうだ」と言葉をかける
- ・大きな包容力と厳しいチェック
- ・自分が悪かったら謝ろう

人間には誰でも失敗があるもの。少年と生活を共にし、範を示す存在としての職員として例外ではない。ケースとしては、様々な場面が想起されるが、失敗をしたら謝る。このごくごく当然のことではあるが、相手が少年であるとなると、変に肩肘を張ってしまうことはあるまいか。素直に「ゴメン」、その姿が少年をも素直な方向へと導く。

- ・処遇に待たなし

少年は、無理難題を要求することはない。要求があったら即実行。「(ア) どうして早く言わない(イ) 忙しいから後にせよ(ウ) 俺の係ではない、他の先生に頼め」では、少年との信頼関係は得られない。そのことで少年は、その教官に対して表面では従順に見えても、在院期間中、不信感を抱いていることが多くある。

- ・少年と約束したことは必ず守れ
- ・執務時間以外は自分の時間と割り切るな
- ・共に汗を流せ
- ・他人の意見に耳を貸せ
- ・寛容は 常日頃の体調維持から

5 個別面談の徹底を

- ・少年の評価には減点法より加点法を

少年の問題行動に目を向けるにはもちろん大切なことであるが、あれができるようになった、これも良くなったと探すほうが少年を愛することができ、少年も自分を愛してくれる先生を感じてくれるに違いない。少年の日記のコメントなどでもそうした配慮を持ちたい。

- ・面接時 親の態度に子を知るヒント
- ・少年には「やらされた」体験より 「自分でやった」「自分で考えてやった」「自分で決めてやった」体験を
少年院では秩序ある生活を少年に送らせるために、たくさんの規則を作り、それ守らせることも、少年の入

縦な生活態度を考えると必要な体験であるが、少年の側に「やらされた」という意識がある限り、自分の行為に対する責任を感じることも少ないということを忘れてはならない責任感の涵養は少年院の最も大切な教育目標の一つである。

- ・少年に一度指導したからといって気を抜くな
- ・フィードバックの技術が効果を左右する
- ・少年の目を見て心情を把握しよう
- ・はい分かりましたという言葉に満足するな

人の話しに耳を傾けて来ているようで聞いていない。それは、これまでの社会生活で、親や学校の先生の話聞いてこなかった、すなわち、「聞く学習」が見に着いていないことを示している。しかし、そういった少年でも、「はい、分かりました」という返事だけはしてくれる。しかし、何がどのように分かったか確認してみると、実は「分かっていますがうまく説明できません」と答えてみたり。「言葉の意味がよく分からなかった。聞き漏らしたので、もう一度お願いします」という言い方をする（実はこういった少年の方が経験的には多い）。指導者は常に少年が本当に理解しているかどうかを確認しなければ、結局何も伝えないまま過ぎていってしまう。

- ・分かりきったことを分かっていない少年が意外にたくさんいるものです
- ・指導には結果の確認を
- ・なぜいけないのかを理解させよう

6 聞き上手になろう ―適切な指導を考える―

- ・少年の指導は太鼓を叩くが如く 強弱あわせ持つべし
少年の問題性や資質はそれぞれ違う。能力の低い少年に高いレベルの教育を求めても無理がある。それと同じように、能力の高い少年に低いレベルの教育を行ってもいけない。個々の資質をよく見極め、その資質に応じた教育を行わなければならない。
- ・理屈より体であたれ
- ・電話の対応 さりげない言葉遣いが信頼を深める
- ・「やればできる」を心に刻ませよう
- ・後手後手の処遇をするな
- ・問題があるときこそ指導のチャンス
- ・感情的な反応には冷静な対応を
- ・話しは目で聞け
- ・聞き上手になろう
- ・聞き役に徹する
- ・ほめることを忘れるな
- ・結果だけでなく過程もほめる
- ・叱ったあとのアフターケアを忘れずに
- ・日記を読み取れ
少年の日記は、少年たちの心の反映である。一語一句に気を配り、さりげない表現のなかにあるものを見逃さないようにすることが大切である。喜怒哀楽をありのままに書いてくる少年はよいが、何があっても何事もないような書き方をする者もいる。普段より字数が少ない、投げやりな書き方をしている、消しゴムの消し跡が多い、字が乱れている等、すべて要注意であることを忘れないでほしい。
- ・女子少年に対する注意 話しかけるなら全員に
- ・ボランティア活動で喜ばれる顔が少年を変える
- ・あせるな！答えは一つではない
- ・分からないことは分からないと言おう
- ・高飛車な言い方は避けよう
- ・成長を期待する気持ちが大切
- ・むやみに指導を加えるな
- ・親子問題を指導する手がかりは、その親を知ることから始まる

7 風通しのよい集団作り — 集団指導の大切さ —

- ・ 集団場面では一人の少年に係わるな 集団を動かすことに専念せよ
- ・ 言い分は両者から
- ・ 風通しのよい集団作り
管理のための集団ではなく、教育的要素を取り入れた自律的・自主的な集団作りが必要である。法務教官と少年が共同して、息の通った向上的精神の漂う(寮)集団風土の醸成を計っていくことが大切である。
- ・ 類は友を呼ぶ
- ・ インフォーマルグループは組織力で
少年が一人加わるごとに集団に変化が生ずる。特に問題少年が加わると、その少年に服従する者、同調する者がいて衆情が悪化する。悪い芽は早めに摘み取る必要があるが、個人の力では限界があるので、職員が一致協力して処遇に当たる必要がある。
- ・ 「たぶん大丈夫だろう」は大丈夫じゃない

8 情報は個人化よりも共有化 — 情報と組織 —

- ・ 職員は一枚板となって処遇にあたれ
少年に対する「身柄の確保」「観護・鑑別」「矯正教育」ということに関して、全職員は無条件に一枚板とならなければならない。処遇に当たっては、職員間の意識統一と連帯感が必要である。「職員が分裂し対立すれば、その犠牲となり傷つくのは少年である」ということを銘記すべきである。
- ・ 情報は個人化よりも共有化
- ・ ホウレンソウ（報告・連絡・相談）の徹底
- ・ 行動観察票は足で書け
- ・ 書く！！（記録する）
行動観察は、記載されて初めて生きる。言葉での引き継ぎは、途中で歪められたり消滅したりする。その場にはいない人が、後から読んで、ありありとその状況が分かるように書かなければならない。そして読む人は、読み解く技術を要する。
- ・ 少年の前では職員の話をするな
- ・ 自分だけよい子になるな
- ・ 私的な少年との関係を持つな
- ・ 知ったかぶりは怪我のもと
少年の処遇には常に全員が意識統一を図り、とるべき対策や処遇内容に精通する努力が大切である。処遇の不統一や未熟さから、少年の不満が職員に向けられ、適切な対応ができなくなる。すぐに相談する。また、分からない場合は回答しない。
- ・ 機を逸するな
注意や叱責はタイミングよく行うこと。時機を逸すると効果が薄れ、場合によっては「何で今ごろになって」とかえって反感を持たれ、指導の効果が上がらない。

9 五感を働かせよ — 心のアンテナを高く —

- ・ 自分の直感を大切に
処遇の現場においてはマニュアルが大切であるが、マニュアルどおりにいかない場合がほとんどであり、そんな場合には自分自身のこれまでの現場の中で培った直感が頼りである。この直感を磨いておく必要がある。
- ・ 偽装行為に要注意
- ・ 異常なくとも変化有り
- ・ 何事も自分の目で見て確認せよ
- ・ 目を離すな 五感を働かせよ
- ・ 集団の雰囲気や肌で感じるセンスを磨け
- ・ 少年の語る言葉よりも語らない言葉を聞け

10 今日の黙認は明日のトラブル —少年たちを守る—

この章は、少年院でしか起こりえない内容なので割愛した。

⑤

あなたは何を少年院の手引きから感じましたか。異なることは何ですか？

おわりに

前出の学級担任へのサポートガイドと比較して、少年院の場合はかなり深刻な状況の子どもたちが入っている。しかし、この2つの資料を比較して見ると同じ内容が書かれてあることに驚くであろう。学級担任、生徒指導担当教員、その他の専門家は特別支援教育から問題提起されている内容に対して、生ぬるい、あまやかしたと考える人々もいるであろう。また、特別支援教育の分野の教員は、自分が実践している内容は生徒指導、ましてや少年院で行っている内容と正反対ではないかと思っている教員が多いのではないかと。

このように2つの資料を比較すると、現在直面している様々な課題を解決するために何が必要なのか見えて来たのではないだろうか。

日本は今、瀕死の状態にあると思います。教育分野、法務分野、労働厚生分野、様々な専門家が一致団結して、未曾有の状況に対応していきましょう。